

全ては、子ども達の笑顔のために

白鳥公園愛護会

代表

升野 辰作さん

副代表

高橋 計さん

公園内に「農園」。

その管理をしているのは、白鳥公園愛護会の皆さん。毎月第1土曜日の清掃活動、公園内の花壇管理に加え、ファームの管理と3つの活動を三位一体化して、白鳥公園を地域住民に愛される美しい公園として維持管理されています。

今回は、この「白鳥コミセンファーム」について、白鳥公園愛護会の皆さんに話を伺いました。



白鳥公園愛護会の皆さん

ももとは人工池だった

公園が整備された当初、ファームの場所には、人工池がありました。その後、十数年前に、来園者の安全対策のために、町がそこを埋め立てて花壇にし、北部児童館の職員が管理していました。その管理が大変だと聞きつけた白鳥老人クラブ（はくちよう会）の有志らが、地域貢献することで活動を活性化させようとの管理を自ら引き受けられ、白鳥コミセンファームが開園しました。

感謝、笑顔、そして…

「管理は大変ですが、このファームをきっかけに子ども達や児童館の職員とも、とても良い関係を築くことができるようになりました」と代表の升野さんは話します。

そして、ここでサツマイモの収穫祭など、世代間交流事業を開催できるようにになったのも、我々だけの力ではなく、これまでいろいろな人の助けがあってこそここまで来れたと他者への感謝を忘れません。

取材した日は、サツマイモの収穫祭。みんなでサツマイモの収穫作業を終えると、子ども達からお礼の



手紙が贈呈されました。

副代表の高橋さんは「わあ、泣けちゃいますよ。子ども達の笑顔が見られるだけ十分なのに」と目を潤ませながら手紙を受け取っていました。

ファームで育てているものは

最後に、白鳥公園愛護会の皆さんは「我々は、単に『野菜づくり』をしているのではありません。子ども達の『心のふるさとづくり』をしているのです」と地域の子ども達への



熱い想いを語ってくれました。白鳥公園愛護会の皆さんによる公園での「生きた教育」により、きつと子ども達には『お世話になったこの町が好き』『地域のために何かしたい』と感謝を越えた心の変化が見られることでしょう。

今冬は、ダイコンとカブとタマネギを栽培するとお聞きしました。野菜と子ども達の成長がとても楽しみです！